



生活習慣病予防を目指した脂質代謝酵素ジアシルグリセロールキナーゼに関する研究

総合科学研究支援センター 助教 堺 弘道

高齢化社会における運動不足や食事の偏りはフレイルや肥満を誘発し、2型糖尿病や動脈硬化などの生活習慣病を引き起こすことが知られています。私たちは、このような生活習慣病の予防・治療法を開発するために、脂質代謝酵素ジアシルグリセロールキナーゼの機能を明らかにすべく研究を推進しています。

現在までに、ジアシルグリセロールキナーゼは血中グルコースの消費に関与するだけでなく、骨格筋の形成にも関わることを見出しています。そのため、ジアシルグリセロールキナーゼのタンパク量を増加させることは、血中グルコースの低下と骨格筋量の増加をもたらし、フレイルの予防や2型糖尿病治療法の開発に繋がると期待されています。すでに、牛乳などの乳製品に含まれるミリスチン酸がジアシルグリセロールキナーゼのタンパク量を増加させることを見出しており、現在、このミリスチン酸の健康促進に対する有効性を調べています。